

日本語 OpenVMS

日本語入力プロセス 利用者の手引き

AA-PU8WF-TE

2009 年 11 月

本書は、日本語 OpenVMS 上の端末上で動いているアプリケーションに、日本語を入力するための日本語入力プロセス FIP(Front-end Input Process) についての解説書です。

改訂 / 更新情報:	日本語 OpenVMS V7.2 『日本語入力プロセス利用者の手引き』の改訂版です。
ソフトウェア・バージョン:	日本語 OpenVMS Integrity 日本語 OpenVMS Alpha V7.3 日本語 OpenVMS VAX V7.3

日本ヒューレット・パッカード株式会社

© 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、弊社は一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

日本ヒューレット・パカードは、弊社または弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

Adobe、Adobe Illustrator、POSTSCRIPT は米国 Adobe Systems 社の商標です。

BITSTREAM は米国 Bitstream 社の商標です。

COMPAQ は米国 COMPAQ Computer 社の商標です。

Microsoft、MS および MS-DOS は米国 Microsoft 社の商標です。

Motif、OSF、OSF/1、OSF/Motif および Open Software Foundation は米国 Open Software Foundation 社の商標です。

その他のすべての商標および登録商標は、それぞれの所有者が保有しています。

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1 を用いて作成しています。

目次

まえがき	vii
1 日本語入力プロセス (FIP) 概要	
2 FIP の起動と終了	
2.1 FIP の起動	2-1
2.2 個人辞書と PROFILE の指定	2-1
2.3 FIP の終了	2-3
2.3.1 INPUT STOP	2-3
3 かな漢字変換入力	
3.1 かな漢字変換入力ができる状態	3-1
3.2 入力操作	3-1
3.3 キー定義を選択する方法	3-2
4 PROFILE の設定	
4.1 PROFILE の指定	4-1
4.2 独自の PROFILE の作成	4-1
4.2.1 かな漢字変換用のキー定義	4-1
4.2.2 前編集領域 (pre-edit area) の指定	4-2
4.2.3 変換領域のビデオ属性	4-3
4.2.4 ASCII 文字エコー・モードの指定	4-4
4.2.5 かなキー入力時のエコー文字の指定	4-5
4.2.6 自動ローマ字かな変換の指定	4-5
4.2.7 文節拡大, 文節縮小に関する動作の指定	4-6
4.2.8 文節間の移動に関する動作の指定	4-7
4.2.9 カーソル移動に関する指定	4-8
4.2.10 変換情報サーバの指定 (VAX のみ)	4-8
4.2.11 警告ベル音の on/off 指定	4-9
4.2.12 日本語変換スタート・キーの指定	4-10
4.2.13 ステータス・ラインを使用するときのプロンプトの指定	4-11
4.2.14 JIS かな code の指定	4-12
4.2.15 文字コードセットの指定	4-13
4.2.16 ローマ字かな変換テーブル・ファイルの指定	4-13
4.3 PROFILE の例	4-14

5	FIP/SUB 概要	
5.1	日本語入力機能	5-1
5.2	漢字コード変換フィルタ機能	5-2
5.2.1	シフト JIS ホストのサポート	5-2
5.2.2	シフト JIS 端末のサポート	5-2
6	FIP/SUB の起動と終了	
6.1	形式	6-1
6.2	コマンド・パラメータ	6-1
6.3	コマンド修飾子	6-2
6.3.1	/CLI=CLI 名	6-2
6.3.2	/CODE=(option[,...])	6-2
6.3.3	/CONVERSION_KEY=(変換開始キー[,...])	6-3
6.3.4	/DICTIONARY=個人辞書	6-3
6.3.5	/LINE=変換入力行	6-4
6.3.6	/LOG	6-4
6.3.7	/PROCESS=プロセス名	6-4
6.3.8	/PROFILE=プロファイル名	6-4
6.3.9	/PROMPT=プロンプト文字列	6-4
6.3.10	/STATUS_LINE	6-5
7	FIP/SUB のかな漢字変換	
7.1	ユーザ・キー定義ライブラリ (IMLIB)	7-1
7.2	標準のキー定義	7-1
7.3	キー定義の使い方	7-2
7.4	半角カタカナの入力	7-2
8	FIP/SUB の制限事項	
8.1	端末に対する影響	8-1
8.2	端末ラインの属性に関する制限	8-1
8.3	ユーザ・プロセスに関する制限	8-2
8.4	その他の制限	8-2
9	FIP/SUB の使用例	
9.1	FIP/SUB の起動, 日本語入力および終了	9-1
9.2	変換開始キーの指定	9-2
9.3	プロファイルの指定	9-2
9.4	変換入力行の指定	9-2
9.5	シフト JIS 端末の使用	9-3
9.6	シフト JIS ホストの使用	9-3

10 IMCP の概要 (VAX のみ)

10.1	IMCP とは	10-1
10.2	IMCP の起動と終了	10-3
10.3	IMCP コマンド	10-3
	CREATE/PROXY	10-5
	HELP	10-6
	REMOVE PROXY	10-8
	SET PROXY	10-10
	SET PROXY/DEFAULT	10-12
	SHOW CONNECTION	10-14
	SHOW PROXY	10-15
	SHOW SERVER	10-18
	STOP SERVER	10-19

A FIP がサポートする PROFILE の INDEX

B FIP のメッセージ

C 制限事項

索引

例

4-1	PROFILE 内での KEYBIND ファイル指定例	4-2
4-2	PROFILE 内での前編集領域の指定例	4-3
4-3	PROFILE 内での変換領域のビデオ属性指定例	4-4
4-4	PROFILE 内での ASCII 文字の表示モードの設定例	4-5
4-5	PROFILE 内でかなキー入力時のエコー文字の指定例	4-5
4-6	PROFILE 内での自動ローマ字かな変換の指定例	4-6
4-7	PROFILE 内での文節のサイズの変換動作の指定例	4-7
4-8	PROFILE 内での文節間の移動方法の指定例	4-7
4-9	PROFILE 内でのカーソル移動に関する指定例	4-8
4-10	PROFILE 内での変換情報サーバの指定例	4-9
4-11	PROFILE 内での警告ベル音の on/off の指定例	4-10
4-12	PROFILE 内での日本語変換スタート・キーの指定例	4-11
4-13	PROFILE 内でのステータス・ライン上のプロンプト文字列の指定例	4-11
4-14	PROFILE 内での JIS かな code の指定例	4-12
4-15	PROFILE 内での文字コードセットの指定例	4-13
4-16	PROFILE 内でのローマ字かな変換テーブル・ファイルの指定例	4-14
4-17	PROFILE の例	4-14

図

1-1	FIP の構成要素	1-2
5-1	端末での入出力機構	5-1
5-2	FIP/SUB 起動時の端末での入出力機構	5-2
5-3	シフト JIS ホストのサポート	5-3
5-4	シフト JIS 端末のサポート	5-3
10-1	CIserver 概略図	10-2

表

6-1	コマンド修飾子	6-2
6-2	変換開始キーとして指定可能なキー	6-3
10-1	IMCP コマンド一覧	10-3
A-1	FIP がサポートする PROFILE の INDEX	A-1

対象読者

本書は、日本語入力プロセス FIP (Front-end Input Process) を使用する、すべての利用者を対象としています。

本書の構成

本書は、10 の章と 3 つの付録から構成されています。

- 第 1 章 FIP の概要について説明します。
- 第 2 章 FIP の起動方法と終了方法について説明します。
- 第 3 章 FIP を使用した漢字入力方法を説明します。
- 第 4 章 FIP を使用する前のユーザ環境の設定方法について説明します。
- 第 5 章 FIP/SUB の概要について説明します。
- 第 6 章 FIP/SUB の起動と終了の方法、コマンド修飾子について説明します。
- 第 7 章 FIP/SUB 使用時のかな漢字変換について説明します。
- 第 8 章 FIP/SUB を使用する際の制限事項について説明します。
- 第 9 章 FIP/SUB の使用例を示します。
- 第 10 章 変換情報サーバ・コントロール・プログラム (IMCP) について説明します。この IMCP は VAX システム固有のユーティリティです。
- 付録 A FIP のサポートする PROFILE の INDEX の一覧を示します。
- 付録 B FIP のメッセージについて説明します。
- 付録 C FIP を使用する際の制限事項について説明します。

本書で使用する表記法

本書では、次の表記法を使用しています。

表記法	意味
Ctrl/x	Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。
PF1 x	PF1 x という表記は、PF1 に定義されたキーを押してから、別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。

表記法	意味
<code>Return</code>	例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。
...	例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 文中のオプションの引数が省略されている。 • 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。 • パラメータや値などの情報をさらに入力できる。
.	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。
()	コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。
[]	コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。
[]	コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。
{ }	コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 のオプションを指定しなければなりません。
太字	太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。
<i>italic text</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i>)、コマンド・ライン (たとえば <i>PRODUCER=name</i>)、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i>) などの変数を示す場合にも使用されます。
UPPERCASE TEXT	英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。
Monospace type	モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。 C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。
-	コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数がその後の行に続くことを示します。
数字	特に明記しない限り、本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数、8 進数、16 進数) は、その旨を明記してあります。

日本語入力プロセス (FIP) 概要

日本語入力プロセス (FIP) は、日本語 OpenVMS 上の端末 (VT282, VT382 等) 上で動いているアプリケーションに、日本語を入力するためのフロントエンド・システムです。

FIP を利用して日本語を入力する場合、かな漢字変換処理を行いますが、その際、ユーザの好みに合わせて変換キーの設定を変えられる機能を提供します。この機能は、FIP のために開発された変換キー定義ライブラリ (IMLIB) (以下 IMLIB と記述) によって実現されていますが、他のアプリケーションでも利用できるようにインタフェースが公開されています (『IMLIB/OpenVMS ライブラリ・リファレンス・マニュアル』を参照)。

【 VAX 】

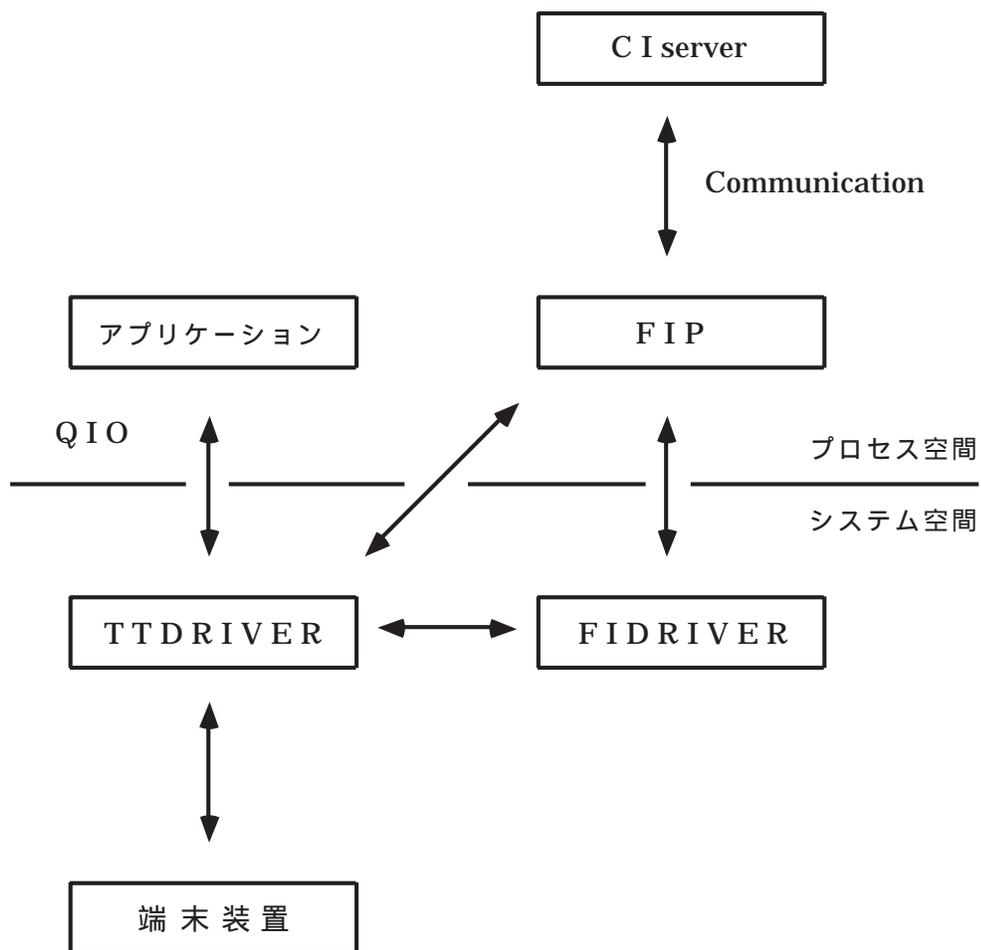
FIP は、辞書アクセスを含むかな漢字変換を、変換サーバ・プロセス (変換情報サーバ (CIServer)) によって行うことができます。したがって、ネットワーク上のどのノードからも、同一の辞書を用いたかな漢字変換サービスを受けることができます。かな漢字変換サービスの設定については、第 10 章「IMCP の概要 (VAX のみ)」を参照してください。

【 Alpha/Integrity 】

変換情報サーバ (CIServer) は、日本語 OpenVMS Alpha および日本語 OpenVMS Integrity オペレーティング・システムではサポートされません。FIP は FIP 自身でかな漢字変換を行います。したがって、この手引きの変換情報サーバに関する記述および説明は、日本語 OpenVMS Alpha および日本語 OpenVMS Integrity では無効です。

FIP の構成の概略は、図 1-1 のようになっています。

図 1-1 FIP の構成要素



- C I server はシステムのスタート時に起動されます。
- FIP は起動時にユーザのプロファイルを見て、かな漢字変換のユーザ・インタフェースを決めます。
- ターミナルからの入力要求は FIDRIVER を通して FIP に渡されます。
- FIP は C I server を使ってかな漢字変換を行い、変換途中の結果をアプリケーションが使っているターミナルに表示します。
- ターミナータが入力されて入力が終了すると、FIP は変換によって得られた文字列を FIDRIVER を通して TTDRIVER に返します。
- TTDRIVER は FIDRIVER から来た文字列を、ターミナルからの入力としてアプリケーションに返します。

注意

PROFILE に CIsServer の指定がない場合は、FIP 自身でかな漢字変換を行います。

FIP の起動と終了

この章では、日本語入力プロセス (FIP) の起動と終了の方法について説明します。

2.1 FIP の起動

FIP は、DCL コマンドの INPUT コマンドによって起動することができます。またこの際、DCL のコマンド・ライン上で、かな漢字変換で使用される個人辞書名や PROFILE 名を指定することもできます。

DCL のコマンド・ライン上で次のように入力します。

```
$ INPUT START
```

すると次のメッセージが出力されて、FIP が起動されます。

```
%FIP-I-WAITCONFIP, Wait establish FIP connection...  
%FIP-S-CONCOM, connect FIP successfully completion
```

2.2 個人辞書と PROFILE の指定

FIP 起動時に、かな漢字変換で使用される個人辞書や、かな漢字変換キー等の環境設定のための PROFILE を指定することができます。これらの設定は日本語環境設定ユーティリティ (JSYS\$CONTROL) を使うと簡単に設定することができます。詳しくは『日本語ユーティリティ利用者の手引き』を参照してください。なお、PROFILE の詳細については『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』を参照してください。

1. 個人辞書、PROFILE を FIP 起動時に指定しない場合

DCL のコマンド・ライン上で次のように入力します。

(例 1)

```
$ INPUT START
```

FIP の起動と終了

2.2 個人辞書と PROFILE の指定

この例のようにコマンド・ラインに何も修飾子を指定しなかった場合、個人辞書としてSYSS\$LOGIN:JSY\$KOJIN.JISHO、PROFILEとしてIMS\$DEFAULTS:IMS\$PROFILE.DATを使用します。漢字変換キーはJVMSとなります。

次の例のように論理名 JSY\$KOJIN に個人辞書ファイル名が定義されている場合は、その個人辞書が用いられます。論理名 JSY\$KOJIN がない場合は、SYSS\$LOGIN:JSY\$KOJIN.JISHOが使われます。同様に論理名 IMS\$PROFILE に PROFILE が定義されている場合は、その PROFILE が用いられます。この論理名がない場合は、PROFILE としてIMS\$DEFAULTS:IMS\$PROFILE.DATが使われます。

(例 2)

```
$ DEFINE JSY$KOJIN KOJIN
$ DEFINE IMS$PROFILE IMS$PROFILE_EVEJ
$ INPUT START
```

この例では、個人辞書としてSYSS\$LOGIN:KOJIN.JISHO、PROFILEとしてIMS\$DEFAULTS:IMS\$PROFILE_EVEJ.DATを使用します。漢字変換キーはEVEJキーとなります。

2. FIP 起動時に、個人辞書を指定する場合

DCL のコマンド・ライン上で、次のように個人辞書指定の修飾子を付加します。

```
$ INPUT START/Dictionary=[ 個人辞書指定 ]
```

[個人辞書指定]では、ディレクトリ名から個人辞書ファイルを指定することができます。ファイル名のみ指定した場合は、ディレクトリ名はSYSS\$LOGIN、ファイル・タイプは.JISHO が適用されます。ただしこの修飾子が付加されない場合は、論理名 JSY\$KOJIN で定義されたファイル名が参照されます。

(例 1)

```
$ INPUT START/Dictionary=PRIVATE
```

この例では、個人辞書としてSYSS\$LOGIN:PRIVATE.JISHOを使用します。

(例 2)

```
$ INPUT START/Dictionary=SYSS$LOGIN:PRIVATE.JISHO
```

この例では、個人辞書としてSYSS\$LOGIN:PRIVATE.JISHOを使用します。

3. FIP 起動時に、PROFILE を指定する場合

DCL のコマンド・ライン上で、次のように PROFILE 指定の修飾子を付加します。

```
$ INPUT START/PROFILE=[ PROFILE 指定 ]
```

[PROFILE 指定]では、ディレクトリ名から PROFILE を指定することができます。ファイル名のみ指定した場合は、ディレクトリ名は IMSDEFAULTS、ファイル・タイプは.DAT が適用されます。

```
$ INPUT START/PROFILE=IM$PROFILE_TARO
```

この例では、PROFILE としてIM\$DEFAULTS:IM\$PROFILE_TARO.DATを使用します。漢字変換キーは TARO キーとなります。

4. FIP 起動時に、個人辞書、PROFILE を指定する場合

DCL のコマンド・ライン上に次のように修飾子を付加します。

```
$ INPUT START/Dictionary=[ 個人辞書指定 ]/PROFILE = [ PROFILE 指定 ]
```

指定方法の詳細は、2、3を参照してください。

2.3 FIP の終了

一旦起動された FIP は、何らかの障害が発生しない限りそのまま動作し続けます。FIP を停止させたい場合には INPUT コマンドを使用します。

2.3.1 INPUT STOP

DCL のコマンド・ライン上で、次のように入力します。

```
$ INPUT STOP  
%FIP-S-DSCCOM, disconnect FIP successfully completion
```

というメッセージを出力して、FIP が停止されます。

かな漢字変換入力

この章では、かな漢字変換入力について説明します。

3.1 かな漢字変換入力ができる状態

FIP を起動しても、必ずしもすべてかな漢字変換入力ができるようにはなりません。特殊な読み込み処理をしているアプリケーションの場合には、FIP のトラップにはかからずにそのままの入力処理が実行されます。つまり、図 1-1 において、FIDRIVER にトラップされずに、TTDRIVER がそのまま処理をしてしまう場合があります。

かな漢字変換入力ができる状態であるかどうかを見るためには、PROFILE の中で変換対象文字列のビデオ属性の指定を、反転 (reverse)、下線 (underline) 等に設定しておけば、その設定のビデオ属性で表示された場合に、かな漢字変換入力が可能であることがわかります。

日本語 OpenVMS が提供する PROFILE では、かな漢字変換可能な場合は強調 (bold) または下線 (underline) になります。

3.2 入力操作

入力操作は、通常の日本語入力エディタ等と同様です。ただし、エディタと違う点は、PROFILE で設定したキー定義ファイルに従って、変換処理ができるということです。

日本語 OpenVMS は、あらかじめ作成されたキー定義を 4 種類提供します。ユーザは簡単な操作で、これらのキー定義のうちの 1 つを選択して使用することができます。ユーザが何も変更しなかったときには、JVMS キーが使用されます。

1. JVMS キー

日本語 OpenVMS 標準のキー定義です。JVMS キーを使うと、かな漢字変換キーと VMS の行編集キーとが重ならないという特徴があります。詳しくは、『日本語ライブラリ 利用者の手引き』を参照してください。

2. EVEJ キー

EVEJ エディタのキー定義です。日本語 EVE の EVEJ キーパッド・モードで使用されています。詳しくは『日本語 EVE ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3. LEIA キー

LEIA エディタのキー定義です。数字キーパッドを使ってかな漢字変換を行います。詳しくは、『日本語ライブラリ 利用者の手引き』を参照してください。

4. TARO キー

ワープロ・ソフトの一太郎に似たキー定義です。

(注：一太郎は株式会社ジャストシステムの登録商標です。)

3.3 キー定義を選択する方法

キー定義を使用する場合には、論理名 IM\$PROFILE を次のように定義します。ユーザが何も選択しない場合には、キー定義は JVMS キーが使用されます。

- JVMS キーを使用する場合

```
$DEFINE IM$PROFILE IM$PROFILE_JVMS
```

- EVEJ キーを使用する場合

```
$DEFINE IM$PROFILE IM$PROFILE_EVEJ
```

- LEIA キーを使用する場合

```
$DEFINE IM$PROFILE IM$PROFILE_LEIA
```

- TARO キーを使用する場合

```
$DEFINE IM$PROFILE IM$PROFILE_TARO
```

この定義をユーザの LOGIN.COM に入れておくと、選択したキー定義を以後のセッションで使用することができます。

新しいキー定義をアプリケーションで使用するには、アプリケーションを再起動してください。

なお、これらの設定は日本語環境設定ユーティリティー (JSY\$CONTROL) を使うと簡単に設定することができます。詳しくは『日本語ユーティリティ 利用者の手引き』を参照してください。

PROFILE の設定

PROFILE は、かな漢字変換環境設定の情報が書かれたテキスト・ファイルです。ユーザは、システムが提供する PROFILE またはユーザ独自の PROFILE のどちらでも使用することができます。

4.1 PROFILE の指定

FIP でのかな漢字変換の環境設定は、IMLIB の環境設定規約に従います。したがって IMLIB が規定している、PROFILE という環境設定用のテキスト・ファイルによって、かな漢字変換環境を定義します。この PROFILE を指定するために、論理名 IMSPROFILE を使用します。各ユーザの設定に関しては、『ユーザ・キーマニカル定義 利用者の手引き』を参照してください。

4.2 独自の PROFILE の作成

FIP は、PROFILE 中のいくつかのキーワードを使用して、かな漢字変換の操作を行います。FIP のサポートする INDEX と値の一覧は、付録 A を参照してください。以下に、キーワードの設定方法を記述します。

4.2.1 かな漢字変換用のキーマニカル定義

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.KEY.keybind

FIP は、かな漢字変換用のキーとして IMLIB の提供する KEYBIND ファイルを使用します。したがって、IMLIB で規定されたキーマニカル定義ファイルの所在を、PROFILE 中に保持しておく必要があります (例 4-1 参照)。

PROFILE の設定

4.2 独自の PROFILE の作成

例 4-1 PROFILE 内での KEYBIND ファイル指定例

```
im$profile.dat
+-----+
| DEC-JAPANESE.KEY.keybind : IMSKEY_EVEJ_LEVEL2.IM$DAT |
| DEC-JAPANESE.KEY.keybind_1 : IMSKEY_EVEJ.IM$DAT       |
| .                                                                    |
| .                                                                    |
| .                                                                    |
+-----+
```

この例では、KEYBIND ファイルに、EVEJ キー定義ファイル (IMSKEY_EVEJ_LEVEL2.IM\$DAT) を指定しています。

INDEX の "DEC-JAPANESE.KEY.keybind" で指定した KEYBIND ファイルが正しくなかった場合、この例では次の行の INDEX "DEC-JAPANESE.KEY.keybind_1" で指定した別の KEYBIND ファイル (IMSKEY_EVEJ.IM\$DAT) を用います。一般に KEYBIND ファイルのロードに失敗した場合は、INDEX の "DEC-JAPANESE.KEY.keybind_1" のように、"_(アンダーバー) 数字" の付いた INDEX を 1 から 9 まで順にさがします。

PROFILE 内で指定した複数の KEYBIND ファイルがいずれも正しくなかった場合は、FIP を正常に起動することはできません。KEYBIND ファイルに関しては、「ユーザ・キー定義 利用者の手引き」を参照してください。

また、この設定で SYS\$LOGIN 以外にある KEYBIND ファイルを指定する場合、ディレクトリ名にプロセス論理名、あるいはジョブ論理名を指定することはできません。FIP では、これらの論理名を解釈しません。

4.2.2 前編集領域 (pre-edit area) の指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名
DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow
DEC-JAPANESE.DISP.preEditColumn

FIP は、通常の文字列の入力の流れを途中でとらえて、入力文字をかなや漢字に変換し、元の入力の流れに戻す機能を提供するものですが、かなや漢字に変換するときに、変換作業を画面上で行うための領域を必要とします。これを FIP では、「前編集領域 (pre-edit area)」と呼び PROFILE で指定する必要があります。(例 4-2 参照)。

通常は、端末画面のカラム位置、行位置を整数値で PROFILE 内で指定しますが、画面のステータス・ライン、すなわち 25 行目を前編集領域として設定したい場合、INDEX の "DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow" に "status" を指定します。

例 4-2 PROFILE 内での前編集領域の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|
|      .
| DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow : 24
| DEC-JAPANESE.DISP.preEditColumn : 1
|      .
|      .
|      .
+-----+
```

この例では、前編集領域は 24 行 1 列目が開始点として設定されています。ここで設定された行数や列数が、端末画面の上限値を越えている場合には、FIP は自動的に端末画面の最大値に設定し直します。さらに、特別な場合として "current" という文字列 (小文字) が許されます。このキーワードの意味は、"現在カーソルの存在する位置を、前編集領域として使用してください" ということです。

注意

あらかじめ決められた機能を表す文字列を、一般的にキーワードと呼んでいます。PROFILE の中では、"DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow" 等もキーワードですが、IMLIB では、それらを特別に INDEX と呼んでいます。

4.2.3 変換領域のビデオ属性

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.DISP.inputRendition
 DEC-JAPANESE.DISP.currentClauseRendition
 DEC-JAPANESE.DISP.leadingClauseRendition
 DEC-JAPANESE.DISP.trailingClauseRendition
 DEC-JAPANESE.DISP.kanaRendition

変換領域とは、"かな漢字変換の対象となる入力文字領域" のことです。一般的に、入力文字列自体には何のマークもついていないために、どの文字列が現在の変換対象文字列であるかはわかりません。したがって、変換入力ができる多くのアプリケーションにおいては、変換対象文字列の表示ビデオ属性を、他の文字列と区別することによって、ユーザが変換対象文字列を認知できるようにしてあります。

たとえば、次のような表示だけでは、変換対象文字列がどれかはわかりません。

aiueo

次のような表示であれば、"ueo" が変換対象であることがわかります。FIP では、この変換領域のビデオ属性を PROFILE によって指定する必要があります (例 4-3 参照)。

aiueo

例 4-3 PROFILE 内での変換領域のビデオ属性指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|
|      .
|      DEC-JAPANESE.DISPLAY.inputRendition : bold
|      DEC-JAPANESE.DISPLAY.currentClauseRendition : reverse
|      DEC-JAPANESE.DISPLAY.leadingClauseRendition : none
|      DEC-JAPANESE.DISPLAY.trailingClauseRendition : none
|      DEC-JAPANESE.DISPLAY.kanaRendition : bold
|
|      .
|      .
|      .
|
+-----+
```

この例では、変換対象文字列を高輝度 ("bold")、現在の変換対象文節を反転 ("reverse")、変換対象文字列で、現在の変換対象文節より前に存在する文字列を通常の表示 ("none")、現在の変換対象文節より後ろに存在する文字列を、通常の表示 ("none")、によって表示することを指定します。特に、端末から入力された文字をひらがな、あるいはカタカナ変換した場合の変換領域のビデオ属性を "kanaRendition" で指定することができます。例 4-3 ではひらがな、あるいはカタカナ変換した場合のビデオ属性を高輝度 ("bold") にしています。

4.2.4 ASCII 文字エコー・モードの指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.ECHO.ascii

通常の端末は、ASCII 文字 (アルファベット及び特殊記号) の入力に対して、半角の ASCII 文字をエコー文字として端末に表示します。たとえば、キーボードの "k" というキーを押せば、端末の画面上に "k" という文字が表示されます。一部のワードプロセッサ等では、このエコー文字を全角の漢字コードに変換してから表示するものがあります。この機能を提供するために IMLIB は、ASCII 文字のエコー・モードを設定できるように、PROFILE の INDEX として、ascii を用意しています。ここで指定できるキーワードは、hankaku (半角 = 通常のエコー文字) または、zenkaku (全角 = 全角の漢字コードに対応) のどちらかです (例 4-4 参照)。

例 4-4 PROFILE 内での ASCII 文字の表示モードの設定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
| DEC-JAPANESE.ECHO.ascii : hankaku |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では「半角で ASCII 文字を表示する」ことを指定しています。

4.2.5 かなキー入力時のエコー文字の指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.ECHO.kana

かなキーを用いて文字入力する場合、エコーバックされる文字の指定をします。
"hiragana"あるいは"katakana"を指定すると、それぞれひらがな、カタカナがエコー
されます。また、半角カタカナをエコーバックさせる場合は、"jiskana"を指定します
(例 4-5 を参照)。

例 4-5 PROFILE 内でかなキー入力時のエコー文字の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
| DEC-JAPANESE.ECHO.kana : hiragana |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では、かなキーからひらがながエコーバックされます。

4.2.6 自動ローマ字かな変換の指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.ECHO.autoRomanKana

FIP は、文字入力時にローマ字からかな文字に自動的に変換し、そのかな文字を端末
に表示する機能を持っています。たとえばユーザが、次のように 5 文字のキー入力を行
った場合、そのローマ字に対応するかな文字が、逐次的に端末に表示されます。

PROFILE の設定 4.2 独自の PROFILE の作成

aiueo

この場合は、次のように端末に表示されることになります。

あいうえお

この自動ローマ字かな変換を、PROFILE で指定する場合は、例 4-6 のようになります。

例 4-6 PROFILE 内での自動ローマ字かな変換の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|          |
|          |
| DEC-JAPANESE.autoRomanKana : on |
|          |
|          |
|          |
+-----+
```

この例では、端末から入力されるローマ字を、ひらがなに自動変換することを指定しています。

4.2.7 文節拡大，文節縮小に関する動作の指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.OUTRANGE.clauseSize

文節の長さを変更する際、以下の場合における動作の指定をします。

1. 文節の大きさが最小になっているときに、「文節縮小」キーが押された場合
2. 文節の大きさが最大になっているときに、「文節拡大」キーが押された場合

値に "none" を指定した場合は何も実行しません。"rotate" が指定されると、1 の場合は文節の大きさが最大に、2 の場合は文節の大きさが最小になります。"done" のときは、現在の変換を終了して次の変換入力を待ちます (例 4-7 参照)。

例 4-7 PROFILE 内での文節のサイズの変換動作の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
|                                     |
| DEC-JAPANESE.OUTRANGE.clauseSize : none |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では、1、2の場合に「何も実行しない」ことを指定しています。

4.2.8 文節間の移動に関する動作の指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.OUTRANGE.clauseNumber

変換対象となる文節を指定するとき、以下の場合における動作の指定をします。

1. 現在の文節が最初の文節にあるときに「前文節」キーが押された場合
2. 現在の文節が最後の文節にあるときに「次文節」キーが押された場合

値が "none" のときは、何も実行しません。"rotate" が指定されると、1 の場合は、現在の文節は最後の文節に、2 の場合は、現在の文節は最初の文節に移動します。"done" のときは、現在の変換を終了して次の変換入力を待ちます (例 4-8 参照)。

例 4-8 PROFILE 内での文節間の移動方法の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
|                                     |
| DEC-JAPANESE.OUTRANGE.clauseNumber : rotate |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では、1 の場合は「現在の文節は最後の文節に移動」し、2 の場合は「現在の文節は最初の文節に移動」することを指定しています。

4.2.9 カーソル移動に関する指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.OUTRANGE.cursorPosition

ここでは、以下の場合における動作の指定をします。

1. カーソルが最初の文字にあるときに「左移動」キーが押された場合
2. カーソルが最後の文字にあるときに「右移動」キーが押された場合

値に "none" が指定されると、何も実行しません。"done" のときは、現在の変換を終了して次の変換入力を待ちます (例 4-9 参照)。

例 4-9 PROFILE 内でのカーソル移動に関する指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|               |
|               |
| DEC-JAPANESE. |
| OUTRANGE.cursorPosition : done |
|               |
|               |
|               |
+-----+
```

この例では、1、2 の場合に「現在の変換を終了して、次の変換入力を待つ」ことを指定しています。

4.2.10 変換情報サーバの指定 (VAX のみ)

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.SERVER.name

FIP は、かな漢字変換を行う実体として "変換情報サーバ (CIServer)" というネットワーク上のサービスを使用します。このサーバを使用することによってネットワーク上のどのノードからアクセスしても、同じ変換機能をサービスすることができるのですが、かな漢字変換を行うサーバとしてどのノード上のサーバを使用するかを、プロファイルで指定しなければなりません (例 4-10 参照)。

サーバ名は "IM\$CISERVER_JP" を指定します。したがって、他のノード上の変換情報サーバあるいは個人辞書を使用する場合は、次のように指定します。

```
DEC-JAPANESE.SERVER.name : node-name::IM$CISERVER_JP
```

この場合は、DECnet を使用してかな漢字変換が実行されることとなります。また、ローカルのかな漢字変換サーバを用いる場合は、次のようになります。

```
DEC-JAPANESE.SERVER.name : 0:IM$CISERVER_JP
```

変換情報サーバを使用する場合は、CIserv プロキシの設定が必要です。

```
$ run SYS$SYSTEM:IM$CONTROL.EXE
IMCP> create/proxy
IMCP> set proxy [remote-user] [local-user]
```

また、ローカルの変換情報サーバを使用する際も、ユーザの CIserv プロキシの設定を行ってください。詳しくは第 10 章「IMCP の概要 (VAX のみ)」を参照してください。

もしサーバ名を PROFILE で指定しないと、かな漢字変換はネットワーク上のサービスを使用せず、ローカルの個人辞書を使用することになります。その場合は、個人の SYS\$LOGIN ディレクトリの個人辞書 (SYS\$LOGIN:JSYKOJIN.JISHO) があらかじめ準備されていなければなりません (例 4-10 参照)。

例 4-10 PROFILE 内での変換情報サーバの指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|               |
|               |
| DEC-JAPANESE.SERVER.name : VAXVAX::IM$CISERVER_JP |
|               |
|               |
|               |
+-----+
```

この例では「"VAXVAX"という名のノード上にある、"IM\$CISERVER_JP"というサーバから DECnet ("::") で変換サービスを利用する」ことを指定しています。

注意

日本語 OpenVMS VAX V6.0 システムの CIserv を使用する場合は、“IM\$CISERVER_JP”の代わりに“japanese_kk”を使用する必要があります。

4.2.11 警告ベル音の on/off 指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.FIP.warningBell

PROFILE の設定

4.2 独自の PROFILE の作成

PROFILE 内で、警告ベル音の on/off を設定することができます。"on"を PROFILE 内で指定すると警告ベル音を発し、"off"を指定するとベル音を止めることができます (例 4-11 参照)。

例 4-11 PROFILE 内での警告ベル音の on/off の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|               |
| DEC-JAPANESE.FIP.warningBell : on |
|               |
|               |
+-----+
```

この例では、警告ベル音を鳴らすことを指定しています。

4.2.12 日本語変換スタート・キーの指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.FIP.conversionStartKey

通常、FIP を起動させると、端末から入力される文字はすべて日本語変換の対象になりますが、PROFILE 内で「日本語変換スタート・キー」を指定することにより、そのキー入力後のみ、日本語変換を行うように設定ができます。そして、一連の日本語変換が確定し、その行での入力が終了するとまた無変換状態に戻り、再び各ユーザが指定した「日本語変換スタート・キー」が入力されるまでは、日本語変換を実行できない状態にしておくことができます (例 4-12 参照)。

日本語変換の前編集領域を DCL のコマンド・ライン上に指定している場合は (DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow : current)、通常リターン・キーによってその行での入力が終了し、変換スタート・キーが無効となって無変換状態に戻ります。

前編集領域をステータス・ライン上に指定している場合は (DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow : status)、変換スタート・キーが入力されるまでは、DCL の現在のコマンド・ライン上で、通常 FIP を起動していない状態のキー入力ができますが、スタート・キーを入力した時点でステータス・ライン上にプロンプトが表示され、そのライン上で日本語変換が可能になります。変換後ステータス・ライン上でリターン・キーを入力すると、確定文字列が DCL コマンド・ラインに戻ります。この時点で、変換スタート・キーが無効となって無変換状態に戻ります。再びスタート・キーを入力するまでは、ステータス・ラインは用いられず、入力はすべての DCL のコマンド・ラインに表示されます。

このような変換スタート・キーを必要としない場合は、PROFILE から、この INDEX (DEC-JAPANESE.FIP.conversionStartKey) を除いておきます。

例 4-12 PROFILE 内での日本語変換スタート・キーの指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
|                                     |
| DEC-JAPANESE.FIP.conversionStartKey : CTRL_E |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では、日本語変換スタート・キーを、`[Ctrl/E]`で指定しています。すなわち、FIP を起動させた後でも、このスタート・キーを入力するまでは、入力文字列を日本語変換させることはできません。ある時点で、スタート・キーを入力して初めて、日本語変換を実行することができます。変換を確定し、その行での入力が終了すると、また日本語変換をしない状態に戻り、`[Ctrl/E]`を再び入力するまでは日本語変換できません。ユーザが DCL 上でコマンド入力する際、部分的にのみ日本語を入力したい場合などに用いられます。変換スタート・キーのキー名の指定方法については、付録 A を参照してください。

4.2.13 ステータス・ラインを使用するときのプロンプトの指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.FIP.statusLinePrompt

FIP を用いて日本語変換を行うとき、端末のステータス・ラインを利用することができます。その際にステータス・ライン上に表示されるプロンプトの文字列をユーザが指定できます (例 4-13 参照)。プロンプトの文字列をユーザが指定しないときは、"変換>"という文字列がプロンプトとして、ステータス・ライン上に現れます。

例 4-13 PROFILE 内でのステータス・ライン上のプロンプト文字列の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
|                                     |
| DEC-JAPANESE.FIP.statusLinePrompt : 日本語変換 > |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

PROFILE の設定

4.2 独自の PROFILE の作成

この例では、プロンプト文字列として、"日本語変換>"を設定しています。

注意

ステータス・ラインを使用するときは、前編集領域の指定で "DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow" に "status" を指定します。

4.2.14 JIS かな code の指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名

DEC-JAPANESE.CHAR.jisKana

日本語変換を行うときに、JIS のかな code (半角かなコード) を使用するかどうかを指定します。JIS かな code を使用する場合、C1 制御文字コード (SS2) が送られますので、FIP を使用するアプリケーション側で、この制御コードを処理する必要があります (例 4-14 参照)。

注意

通常のアプリケーションは、(SS2 + JIS かな) を 1 文字として取り扱っていません。したがって、アプリケーションが上記コードを明示的にサポートしている場合以外は、'off' で使用することをお勧めします。

ユーザが C1 制御文字コード (SS2) を端末から入力する場合は、FIP を起動する前に、端末属性の設定を行わなければなりません。端末属性の設定は、KANJIEN コーティリティを用います。

```
$ RUN JSY$SYSTEM : KANJIGEN
KANJIGEN> SET/EDIT=ENABLE
KANJIGEN> EXIT
```

これで、端末が multi-byte editing 状態となり、"SS2 + JIS かな" が入力可能になります。

例 4-14 PROFILE 内での JIS かな code の指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|               |
|               |
| DEC-JAPANESE.CHAR.jisKana : off |
|               |
|               |
|               |
+-----+
```

この例では、日本語変換時に JIS のかな code を使用しません。

4.2.15 文字コードセットの指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名
DEC-JAPANESE.CHAR.codeSet

FIP を用いて日本語変換を行うときに使用する文字のコードセットを指定します。ただし、FIP は通常 Super DEC 漢字のコードセットを扱っていますので、Super DEC 漢字のコードセットで特に問題ない場合は、ユーザがこの INDEX を PROFILE に追加する必要はありません (例 4-15 を参照)。

例 4-15 PROFILE 内での文字コードセットの指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
|                                     |
| DEC-JAPANESE.CHAR.codeSet : sdeckanji |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では、文字コードセットとして Super DEC 漢字を指定します。

4.2.16 ローマ字かな変換テーブル・ファイルの指定

PROFILE 内の該当する INDEX 名
DEC-JAPANESE.ECHO.romkanaDB

FIP を用いてローマ字文字列をかな文字列に変換するときの "ローマ字 - かな" の対応を、ユーザがカスタマイズする事ができます。

ユーザがカスタマイズしたい場合は、テンプレート・ファイルに記述されたテーブルの書式に合わせて変更してください。カスタマイズしたファイルに対しては、ファイル名、ファイルタイプ名に特に制限はありません。

ローマ字かな変換のテンプレート・ファイルは、
JSY\$EXAMPLES:IMS\$ROMKANA_DB.TEMPLATE です (例 4-16 を参照)。

PROFILE の設定

4.2 独自の PROFILE の作成

例 4-16 PROFILE 内でのローマ字かな変換テーブル・ファイルの指定例

```
im$profile.dat
+-----+
|                                     |
|                                     |
| DEC-JAPANESE.ECHO.romkanaDB : USER$:[TMP]ROMKANA.DAT |
|                                     |
|                                     |
|                                     |
+-----+
```

この例では、ローマ字かな変換テーブル・ファイルとして
USERS:[TMP]ROMKANA.DAT を指定します。

4.3 PROFILE の例

例 4-17 PROFILE の例

```
MYDIR:MY_PROFILE.DAT
+-----+
| DEC-JAPANESE.KEY.keybind : IM$KEY_JVMS_LEVEL2 |
| DEC-JAPANESE.KEY.keybind 1 : IM$KEY_JVMS |
| DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow : current |
| DEC-JAPANESE.DISP.preEditColumn : current |
| DEC-JAPANESE.DISP.inputRendition : bold |
| DEC-JAPANESE.DISP.kanaRendition : bold |
| DEC-JAPANESE.DISP.currentClauseRendition : reverse |
| DEC-JAPANESE.DISP.leadingClauseRendition : none |
| DEC-JAPANESE.DISP.trailingClauseRendition : none |
| DEC-JAPANESE.CHAR.jisKana : off |
| DEC-JAPANESE.ECHO.kana : hiragana |
| DEC-JAPANESE.ECHO.ascii : hankaku |
| DEC-JAPANESE.ECHO.autoRomanKana : off |
| DEC-JAPANESE.OUSTRANGE.clauseSize : none |
| DEC-JAPANESE.OUSTRANGE.clauseNumber : rotate |
| DEC-JAPANESE.OUSTRANGE.cursorPosition : done |
+-----+
```

PROFILE を特に変更しない場合は、例 4-17 の PROFILE の INDEX 情報が、FIP を起動するときに参照されます。この PROFILE の初期設定では、変換サーバや変換スタート・キーなどは含まれていないことになります。また、この PROFILE に含まれている INDEX を省略しても、例 4-17 に示された値が標準値として設定されます。

FIP/SUB は、日本語 OpenVMS V6.1 から新たに追加された、サブプロセスを利用して日本語入力処理を行うユーティリティです。

5.1 日本語入力機能

FIP/SUB は日本語入力の機能を持たないプログラムに対し、手軽に日本語入力の機能を提供する、サブプロセス型のユーティリティです。FIP/SUB を使用することにより、プログラムを修正することなく日本語文字列の入力が可能となります。

通常、端末に対する入出力は、図 5-1 のように端末ドライバを通して行われています。

図 5-1 端末での入出力機構

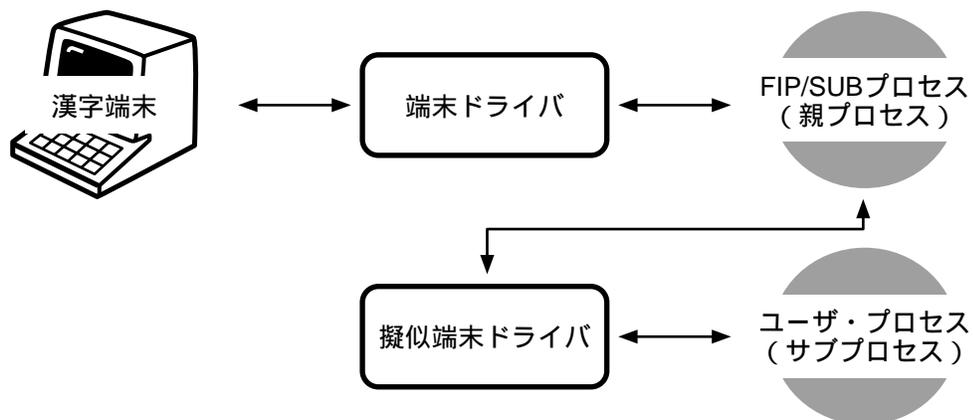


FIP/SUB を使用する場合は、端末ドライバとユーザ・プロセスの間に FIP/SUB プロセスと疑似端末ドライバが加わります。ユーザ・プロセスは FIP/SUB のサブプロセスとして作成され、ユーザの実行するコマンド/プログラムはすべて、このサブプロセスの中で実行されます。端末に対する入出力は FIP/SUB と疑似端末ドライバを通して行われることとなります。図 5-2 はこの関係の概略を示しています。

ユーザ・プロセスからは、疑似端末ドライバが実際の端末ドライバと同じように見えしており、疑似端末ドライバであることを意識することなく使用可能です。

変換開始キーが押されると FIP/SUB は変換入力を行い、入力された日本語文字列を疑似端末ドライバを通してユーザ・プロセスに送ります。ユーザ・プロセスでは、漢字端末から直接日本語文字列が送られたようにみえることとなります。

図 5-2 FIP/SUB 起動時の端末での入出力機構



変換入力を行った後は、FIP/SUB を使用していないときと同じように処理されるため、日本語をサポートしていないプログラムを使用する場合、2 バイト文字を削除したり、カーソルキーによる移動を行うときに、キーを 2 回ずつ押す必要があります。

5.2 漢字コード変換フィルタ機能

FIP/SUB では、DEC 漢字とシフト JIS との漢字コード変換フィルタ機能を提供します。

5.2.1 シフト JIS ホストのサポート

DEC 漢字端末から、シフト JIS を使用するアプリケーションの実行、または、シフト JIS を使用するパソコン通信等への接続が可能です。

5.2.2 シフト JIS 端末のサポート

DEC 漢字コードを使用しているアプリケーションを変更することなく、シフト JIS 端末から DEC 漢字コードを使用しているアプリケーションを使用できます。

ただし、FIP/SUB ではコード変換を行うだけなので、シフト JIS 端末でサポートしていない<ESC>シーケンスを出力するようなアプリケーションは、使用できません。

図 5-3 シフト JIS ホストのサポート

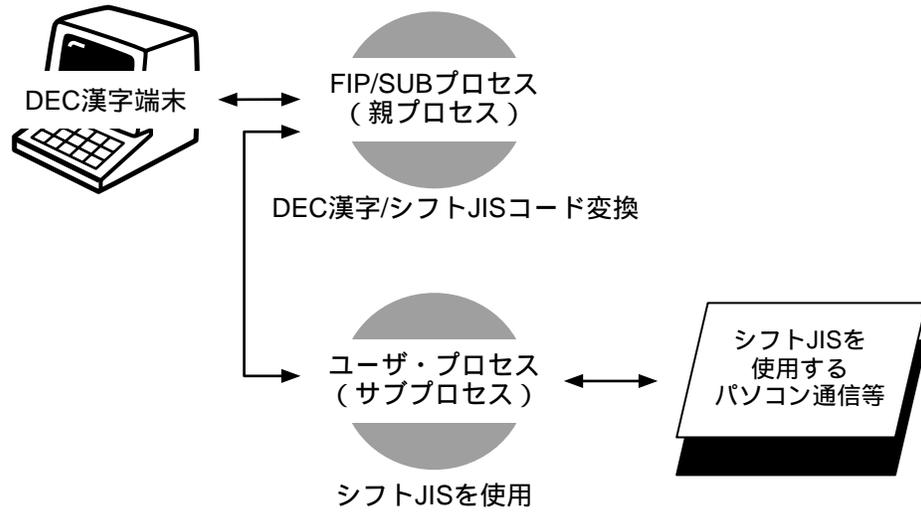
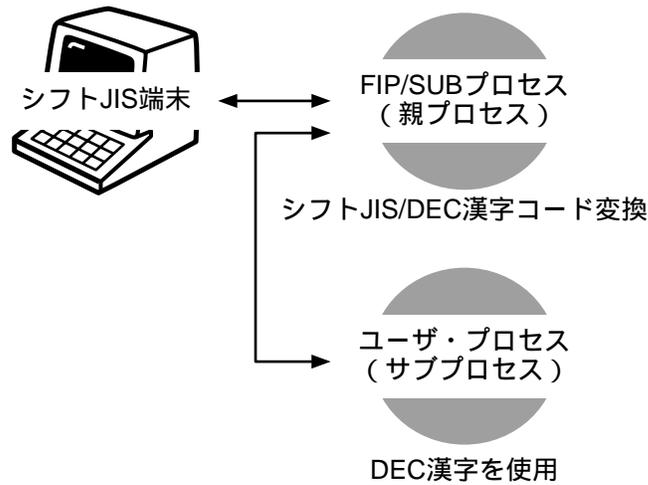


図 5-4 シフト JIS 端末のサポート



FIP/SUB の起動と終了

この章では、FIP/SUB の起動と終了方法、コマンド修飾子について説明します。

FIP/SUB を起動するには次のように DCL コマンドを入力してください。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS
```

終了する場合は、サブプロセスを終了させるための LOGOUT コマンドを入力します。

```
$ LOGOUT
```

6.1 形式

FIP/SUB の形式は次のようになります。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS [コマンド文字列]
```

6.2 コマンド・パラメータ

コマンド文字列

サブプロセス中で実行するコマンド文字列を指定します。これを指定した場合は最初にこのコマンド文字列を実行し、その後、次のコマンドの入力待ちになります。または、最後に LOGOUT コマンドを実行するコマンド・ファイルを作成し、

```
$ INPUT START/SUBPROCESS @ファイル名
```

と入力することにより、コマンド・ファイルを実行後、自動的に FIP/SUB を終了させることができます。

コマンド文字列を指定しなかった場合には、コマンド入力待ちの状態になります。

6.3 コマンド修飾子

この節では、FIP/SUB のコマンド修飾子について説明します。表 6-1 にコマンド修飾子の一覧を示します。

表 6-1 コマンド修飾子

コマンド修飾子	省略時の値
/CLI=CLI 名	
/CODE=(option[,...])	
/CONVERSION_KEY=(変換開始キー[,...])	/CONVERSION_KEY=' '
/DICTIONARY=個人辞書	/DICTIONARY="SYSS\$LOGIN:JSYKOJIN.JISHO"
/LINE=変換入力行	
/LOG	/LOG
/PROCESS=プロセス名	
/PROFILE=プロファイル名	/PROFILE="IMSDEFAULTS:IMS\$PROFILE.DAT"
/PROMPT=プロンプト文字列	
/STATUS_LINE	/STATUS_LINE (VT282,VT382 使用時)

次に各コマンドについて詳しく説明します。

6.3.1 /CLI=CLI 名

サブプロセスで使用する、コマンド・ランゲージ・インタプリタ(CLI)を指定します。

省略時は親プロセスで使用している CLI を使用します。

6.3.2 /CODE=(option[,...])

FIP/SUB で漢字コード変換を行うことを指定します。

以下のオプションを指定できます。

SHIFT_JIS

DEC 漢字コードとシフト JIS コードとのコード変換を行うことを指定します。

この SHIFT_JIS を単独で指定した場合は、端末側が DEC 漢字コード、サブプロセス側がシフト JIS コードとなります。

例: /CODE=SHIFT_JIS

TERMINAL と共に指定した場合は、端末側がシフト JIS コード、サブプロセス側が DEC 漢字コードとなります。この場合、FIP/SUB による漢字変換入力は使用できません。

例: /CODE=(SHIFT_JIS,TERMINAL)
TERMINAL

SHIFT_JIS と共に指定し、端末側がシフト JIS コード、サブプロセス側が DEC 漢字コードであることを指定します。

DELETE

指定したコードを DELETE コードに変換することを指定します。

DELETE=BS BS コードを DELETE コードに変換します。

KANA

半角カタカナを入力した場合に全角ひらがな、またはカタカナに変換することを指定します。

KANA=HIRAGANA 半角カタカナを全角ひらがなに変換します。

KANA=KATAKANA 半角カタカナを全角カタカナに変換します。

6.3.3 /CONVERSION_KEY=(変換開始キー[,...])

変換入力を開始するキーを指定します。変換開始キーには、**Ctrl**キーと共に押して変換入力を開始するキーを、1文字で指定します。また、VT282、VT382 の場合には、変換開始キーに**F6**~**F20**を指定することにより、ファンクション・キーを押して変換入力を開始することができます。変換開始キーは複数指定可能です。ただし、複数指定した場合は、最後のキーのみが実行開始時のメッセージ中に表示されます。

省略時の変換指定キーは“ ` ”キーで、**Ctrl**により変換入力を開始します。

VT282、VT382 等の漢字端末で、変換開始キーとして指定可能なキーを表 6-2 に示します。

表 6-2 変換開始キーとして指定可能なキー

指定可能な変換開始キー	Ctrl キーと共に押して発生するコントロール・コード (16 進)
A ~ Z	01 ~ 1A
@ , 2 , スペース	00
¥ , 1 , \$, 4	1C
J , 3 , % , 5	1D
□ , □ , ^ , 6	1E
/ , ? , & , 7	1F
8	7F (DEL コード)

6.3.4 /DICTIONARY=個人辞書

FIP/SUB での変換に使用する、個人辞書を指定します。

FIP/SUB の起動と終了

6.3 コマンド修飾子

省略時は SYS\$LOGIN:JSYKOJIN.JISHO を使用します。

6.3.5 /LINE=変換入力行

変換入力の作業領域として使用する，画面上の行位置を指定します。

/LINE および/STATUS_LINE のどちらの指定もない場合はデバイス・タイプの値により，VT200_Series，VT300_Series に設定されている場合は，それぞれ VT282，VT382 とみなして 25 行目を使用し，それ以外の場合は 1 行目を使用します。

/STATUS_LINE と同時に指定することはできません。

6.3.6 /LOG

FIP/SUB 実行開始および終了時のメッセージの表示を制御します。

/NOLOG を指定するとメッセージを表示しません。省略時は/LOG でメッセージを表示します。

6.3.7 /PROCESS=プロセス名

サブプロセスのプロセス名を指定します。

省略時は次の形式のプロセス名を自動的に割り当てます。

username_n

6.3.8 /PROFILE=プロファイル名

FIP/SUB を起動する際に参照されるプロファイル名を指定します。

省略時は IM\$DEFAULTS:IM\$PROFILE.DAT を使用します。

6.3.9 /PROMPT=プロンプト文字列

サブプロセスで使用する DCL のプロンプト文字列を指定します。

省略時は親プロセスのプロンプト文字列を使用します。

6.3.10 /STATUS_LINE

VT282 , VT382 の 25 行目を , 変換入力の作業領域に使用することを指定します。

/LINE および/STATUS_LINE のどちらの指定もない場合は , デバイス・タイプの値により VT200_Series , VT300_Series に設定されている場合はそれぞれ VT282 , VT382 とみなして 25 行目を使用し , それ以外の場合は 1 行目を使用します。

/LINE と同時に指定することはできません。

FIP/SUB のかな漢字変換

この章では、FIP/SUB のかな漢字変換について説明します。

7.1 ユーザ・キー定義ライブラリ (IMLIB)

FIP/SUB はユーザ・キー定義ライブラリ (IMLIB) をサポートしています。IMLIB はかな漢字変換のキー定義を自分の好みにあわせて変更するためのライブラリです。文字入力におけるかな漢字変換のキー定義を、各ユーザが好みにあわせて変更することができます。ユーザは自分の使い慣れた変換キーでかな漢字変換が行えます。

詳しくは『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』を参照してください。

7.2 標準のキー定義

IMLIB であらかじめ 4 種類のキー定義が提供されています。ユーザはこれらのうちの 1 つを選択して使うこともできますし、ユーザ作成のキー定義も使用できます。

1. JVMS キー

日本語 OpenVMS 標準のキー定義です。JVMS キーを使うと、かな漢字変換キーと OpenVMS の行編集キーとが重ならないという特徴があります。詳しくは、『日本語ライブラリ 利用者の手引き』を参照してください。

2. EVEJ キー

EVEJ エディタのキー定義です。日本語 EVE の EVEJ キーパッド・モードで使われています。詳しくは『日本語 EVE ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3. LEIA キー

LEIA エディタのキー定義です。数字キーパッドを使ってかな漢字変換を行います。詳しくは、『日本語ライブラリ 利用者の手引き』を参照してください。

4. TARO キー

ワープロ・ソフトの一太郎に似たキー定義です。

(注：一太郎は株式会社ジャストシステムの登録商標です。)

7.3 キー定義の使い方

ここでは、数字キーパッドで変換するために LEIA キーを指定する方法を紹介し
ます。詳しくは『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』を参照してください。

数字キーパッドを使用してかな漢字変換を行っていたユーザは、SYS\$LOGIN に
IM\$PROFILE.DAT を用意してください。起動時に IM\$PROFILE.DAT が参照さ
れ、数字キーパッドでかな漢字変換が行えます。

```
$ COPY SYS$LIBRARY:IM$PROFILE_LEIA.DAT SYS$LOGIN:IM$PROFILE.DAT
```

また、/PROFILE の修飾子で次のような指定も可能です。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/PROFILE=IM$PROFILE_LEIA
```

7.4 半角カタカナの入力

半角カタカナがサポートされているオペレーティング・システムでは、半角カタカ
ナの入力ができます。以下のように論理名 FIP\$SUB_DEFAULT_CODE_SET に
同値名 SDECKANJI を割り当ててから、FIP/SUB を起動してください。起動後、
KANJIEN/INPUT=KANJI/EDIT=ENABLE に設定してください。

```
$ DEFINE FIP$SUB_DEFAULT_CODE_SET SDECKANJI
$ INPUT START/SUBPROCESS
Creating subprocess...
Process INASAWA_1 spawned
Enter LOGOUT command to exit. Type F14 to enter Kanji.
$ RUN JSY$SYSTEM:KANJIEN
KANJIEN > SET/EDIT=ENABLE/INPUT=KANJI
KANJIEN > EXIT
$
```

FIP/SUB の制限事項

この章では、FIP/SUB の制限事項について説明します。

8.1 端末に対する影響

FIP/SUB は、変換入力時にユーザ・プロセスとは独立に端末に対する入出力を行いますので、端末に対して以下のような影響があります。

1. VT282, VT382 で 25 行目を使用する場合は、端末の表示設定が自動的に “ 25 行目 = ホスト制御 ” になります。
2. EDT, TPU などのエディタでは端末に対して挿入/書き換えモードの切り換えを行っていますが、挿入モードになっている状態で変換入力を行うと、表示がおかしくなります。この場合`Ctrl/R`で変換入力行を再表示してください。
3. シフト JIS 端末で使用する場合は、シフト JIS 端末でサポートしていない`<ESC>`シーケンスを出力するようなアプリケーションは使用できません。

8.2 端末ラインの属性に関する制限

FIP/SUB は疑似端末ドライバを使用しているため、端末ラインの属性に関して以下のような制限があります。

1. FIP/SUB はサブプロセスで使用する疑似端末に対し、実際の端末の属性を引継ぎます。このとき端末の属性のうち、Hostsync, TTsync をセット, LFill, CRfill, Remote, Modem, Autobaud, Hangup, DMA, Fallback をクリアします。これらの値をサブプロセス中で変更した場合でも、FIP/SUB 終了時には、FIP/SUB 実行前の値に戻ります。
2. サブプロセス中で SET TERMINAL コマンド等で端末のスピード及びパリティの設定を行った場合、設定は行われますが、実際の処理は行われず無効となります。また、FIP/SUB を終了した時点で、それらの設定は元に戻ります。
3. 端末デバイス名が `_FTAxxx:` (xxx は数字) になりますので、端末デバイス名を調べるようなプログラムは使用できないことがあります。

8.3 ユーザ・プロセスに関する制限

FIP/SUB は LIB\$SPAWN を使用してサブプロセスを作成し、ユーザが入力するコマンドの実行はすべてこのサブプロセス中で行うため、シンボル、プロセス論理名、デフォルト・ディレクトリの設定などは、FIP/SUB 終了時に親プロセスには反映されません。

8.4 その他の制限

1. SET HOST , SET HOST/LAT コマンドでログインした環境では、デフォルトの変換開始キー `Ctrl/`` が機能しません。変換開始キーを別のキーに指定して起動してください。次の例は、変換開始キーを `F14` キーに指定して、起動しています。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/SUBPROCESS/CONVERSION_KEY=F14
```

2. 半角カタカナをサポートしていないオペレーティング・システムで、論理名 `FIP$SUB_DEFAULT_CODE_SET` を定義した場合、かな漢字変換は行えません。
3. コマンド・プロシージャ内で FIP/SUB を起動する場合は、論理名 `SY$INPUT` に同値名 `SY$COMMAND` を割り当ててください。

```
$ DEFINE/USER MODE SY$INPUT SY$COMMAND  
$ INPUT START/SUBPROCESS
```

内部で日本語データを受け付けないようなアプリケーション・ソフトウェアに関しては、FIP/SUB を使用することはできません。たとえば、入力データが英数字であるかどうかをチェックしたり、7ビット ASCII データしか入力を受け付けないアプリケーション・ソフトウェアです。ただし、こうした特別処理を行うソフトウェアは少なく、一般的な入出力を行うソフトウェアでは FIP/SUB で日本語を扱うことができます。

この章では、FIP/SUB の使用例を示します。

9.1 FIP/SUB の起動、日本語入力および終了

```
$ INPUT START/SUBPROCESS
Creating subprocess...
Process INASAWA_1 spawned
Enter LOGOUT command to exit. Type CTRL ` to enter Kanji.
$
```

上記の例のように、FIP/SUB を起動するとサブプロセスが作られ、コマンドの入力およびプログラムの実行が可能になります。

例えば SEARCH コマンドの検索文字列として日本語文字列を指定する場合はつぎのようになります。

```
$ SEARCH NIHONGO.TXT "
```

ここで `Ctrl/`` を押すと、カーソルが変換入力行に移動し

変換入力 :

とプロンプトが表示されます。ローマ字/かな漢字変換により日本語文字列を入力することができます。

変換入力 : 今日は

`Return` キーを押すことによりカーソルが元の画面位置に戻り、コマンド行に入力した日本語文字列が表示されます。

```
$ SEARCH NIHONGO.TXT "今日は
```

二重引用符を閉じます。これで SEARCH コマンドを実行できます。

```
$ SEARCH NIHONGO.TXT "今日は" Return
```

FIP/SUB を終了するには LOGOUT コマンドを入力します。

```
$ LOGOUT
  Process INASAWA_1 logged out at 20-JAN-1994 15:34:23.06
Control returned to process INASAWA
$
```

9.2 変換開始キーの指定

FIP/SUB 起動の際に，/CONVERSION_KEY を指定すると，変換入力を開始するキーを指定することができます。

例：VT282 の[F20]キーを指定

VT282 の場合には，[F6]から[F20]までのファンクション・キーを変換開始キーとして指定できます。例えば，[F20]キーを変換開始キーとして指定する場合は，次のように指定します。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/CONVERSION_KEY=F20\&
Creating subprocess...
Process INASAWA_1 spawned
Enter LOGOUT command to exit. Type F20 to enter Kanji.
$
```

9.3 プロファイルの指定

FIP/SUB 起動の際に，/PROFILE を指定することにより，FIP/SUB でかな漢字変換の動作を決定するプロファイルを指定することができます。詳しくは『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』を参照してください。この例では数字キーパッドでかな漢字変換を行うために，システムで提供されている IM\$PROFILE_LEIA.DAT を指定しています。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/PROFILE=IM$PROFILE_LEIA
```

9.4 変換入力行の指定

FIP/SUB 起動の際に，/LINE を指定することにより，変換入力の作業領域として使用する画面上の位置を指定することができます。変換入力の作業領域として，24 行目を使用したい場合は，次のように指定します。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/LINE=24
```

9.5 シフト JIS 端末の使用

DEC 漢字を使用しているアプリケーションをシフト JIS 端末から使用したい場合には、次のように指定します。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/CODE=(SHIFT_JIS,TERMINAL)
```

もし、シフト JIS 端末の BS キーを DELETE キーとして使用したいときには次のように指定します。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/CODE=(SHIFT_JIS,TERMINAL,DELETE=BS)
```

9.6 シフト JIS ホストの使用

DEC 漢字端末から、シフト JIS を使用するアプリケーションの実行、または、シフト JIS を使用するパソコン通信等への接続をしたい場合には次のようにします。

```
$ INPUT START/SUBPROCESS/CODE=SHIFT_JIS
```

IMCP の概要 (VAX のみ)

この章は、日本語 OpenVMS VAX のシステム管理者を対象に書かれています。次のことを説明します。

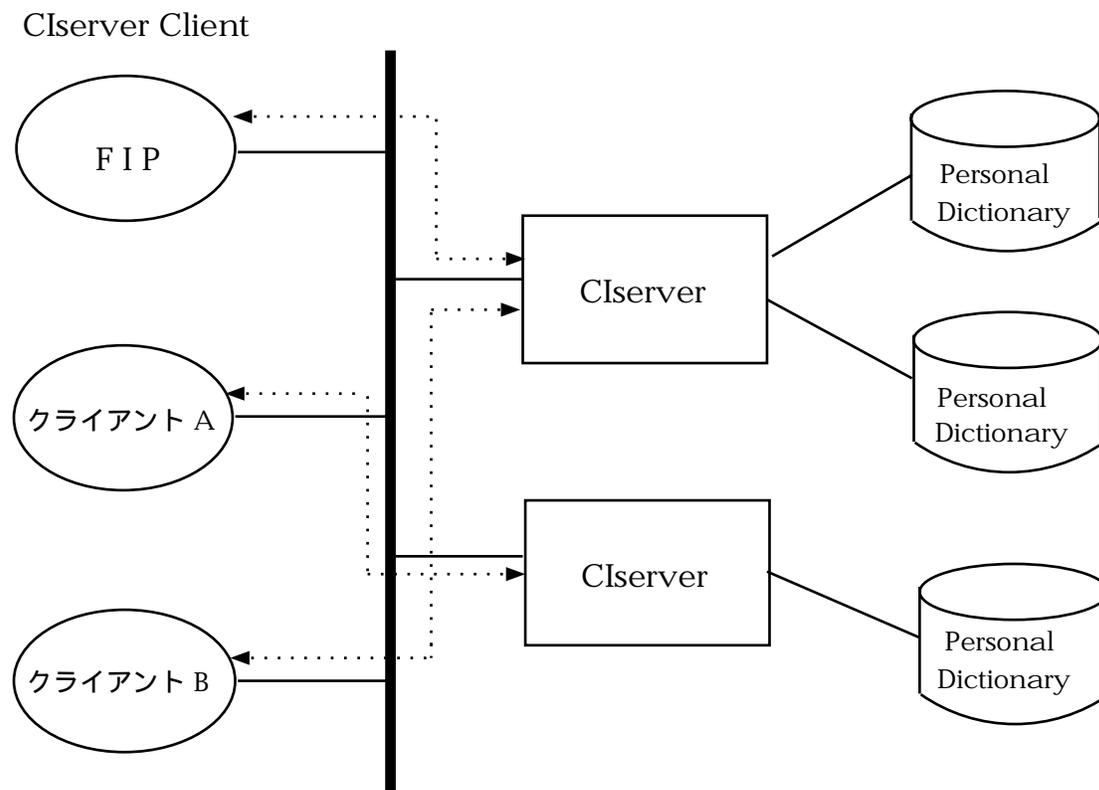
- 変換情報サーバ・コントロール・プログラム (IMCP) の概略
- IMCP の使用方法について
- IMCP のコマンドについて

10.1 IMCP とは

変換情報サーバ・コントロール・プログラム (IMCP) は、日本語 OpenVMS VAX 上で変換情報サーバ (CIserv) を設定したり、コントロールするためのプログラムです。CIserv は、かな漢字変換に必要な情報を FIP (Front-end Input Process) や、その他の変換情報サーバ・クライアントを使用するアプリケーションに提供するサーバです。CIserv はネットワークを経由して、FIP やその他の変換情報サーバ・クライアント・アプリケーションと接続し、かな漢字変換の情報を交換することができます。現在サポートされるトランスポートは、ローカル・トランスポートとDECnet トランスポートの 2 つです。

図 10-1 に、CIserv の概略図を示します。

図 10-1 CIserv 概略図



IMCP を使用すると次のことができます。

- クライアントのノード、ユーザ、トランスポートに応じて、CIserv プロキシ・アカウントを指定できる。また、登録されていないユーザに対して、省略時の CIserv プロキシ・アカウントを設定することができる。

これらの情報は、CIserv プロキシ・データベースで管理されています。

- CIserv のステータスや、CIserv プロキシ・データベースの内容を見る。
- CIserv をシャットダウンする。

10.2 IMCP の起動と終了

IMCP を起動するには、まず DCL コマンドで以下のように入力します。

```
$ RUN SYS$SYSTEM:IM$CONTROL
```

IMCP>というプロンプトが表示されますので、IMCP>プロンプトに続けて、IMCP のコマンドを入力します。IMCP のコマンドについては、第 10.3 節で説明します。

IMCP を終了するには、IMCP>プロンプトに対して "EXIT" とタイプするか **Ctrl/Z** を押してください。

IMCP は、DCL シンボルにコマンドとして定義しておくことにより、1 行で IMCP コマンドを実行することができます。

たとえば CIservr を停止するには、次のようにします。

```
$ IMCP ::= $IM$CONTROL  
$ IMCP STOP SERVER
```

注意

IMCP を使用するためには BYPASS, OPER の特権が必要です。

10.3 IMCP コマンド

この説では、IMCP で使用できるコマンドについて説明します。表 10-1 に IMCP コマンドの一覧を示します。

IMCP のコマンドは、IMCP>プロンプトに続けて入力することができます。

表 10-1 IMCP コマンド一覧

コマンド	説明
CREATE/PROXY	CIservr プロキシ・データベースを作成します。
SET PROXY	ユーザが CIservr を利用してアクセスする辞書を設定します。
SET PROXY/DEFAULT	登録されていないユーザの辞書アクセスを認めるか、あるいは拒否するかを決めます。
REMOVE PROXY	CIservr プロキシ・エントリを削除します。
SHOW PROXY	CIservr プロキシ・データベースに登録されたエントリを表示します。
SHOW SERVER	CIservr のステータスを表示します。
SHOW CONNECTION	CIservr に接続されているクライアントの情報を表示します。

(次ページに続く)

IMCP の概要 (VAX のみ)
10.3 IMCP コマンド

表 10-1 (続き) IMCP コマンド一覧

コマンド	説明
STOP SERVER	CIservr を停止します。
EXIT	IMCP を終了します。
HELP	IMCP サブコマンドに関する説明を表示します。

次に各コマンドについて詳しく説明します。

CREATE/PROXY

辞書アクセスを制御するための CIservr プロキシ・データベースを作成します。

形式

CREATE/PROXY

コマンド修飾子

なし

パラメータ

なし

説明

ユーザが CIservr を利用して、ローカルの辞書にアクセスするには、あらかじめアクセスするための権限 (CIservr プロキシ) をデータベースに登録しておく必要があります。この CREATE/PROXY コマンドは、アクセス権の情報を管理する CIservr プロキシ・データベース (SYSS\$SYSTEM:IM\$CIS_PROXY_DB.DAT) を作成します。新規に CIservr プロキシを設定・登録するには、まずこのコマンドを用いてデータベースを作成します。

例

```
IMCP> CREATE/PROXY
```

この例で、CREATE/PROXY コマンドは、ユーザの辞書アクセス権を登録、管理するための CIservr プロキシ・データベースを作成します。

HELP

IMCP サブコマンドに関する情報を表示します。

形式

HELP [*help-topic* [*subtopic* [...]]]

コマンド修飾子

なし

パラメータ

help-topic

知りたい IMCP のコマンド名を指定します。アスタリスク・ワイルドカード (*) をコマンド名の中あるいは、そのみで使用できます。

subtopic

サブピック (コマンド修飾子あるいはコマンド・パラメータ) を指定します。アスタリスク・ワイルドカード (*) をサブピック名の中、あるいはそのみで使用できます。

説明

HELP コマンドは、IMCP サブコマンドに関する情報を例を挙げて説明します。次の例は SET PROXY の HELP の実行例です。

例

```
IMCP> HELP SET PROXY
```

```
SET  
PROXY
```

SET PROXY コマンドは変換情報サーバ・クライアントをローカルのユーザにマップします。

形式

```
SET PROXY remote-user local
```

次の情報検索が可能です。

```
Parameter /DEFAULT
```

この例は、**Help-topic**としてSET コマンド、**subtopic**としてPROXY コマンドのHELP 情報を示しています。

REMOVE PROXY

CIserver プロキシ・エントリを削除します。

形式

REMOVE PROXY *user*

コマンド修飾子

/LOG
/NOLOG

コマンドの実行結果を表示するかどうかを指定します。省略時設定は/NOLOG です。

パラメータ

user

ユーザ名を指定します。ユーザ名は `node::user` の形で表され、`node` はノード名、`user` はそのノード上のユーザ名を示します。ノード名は 1 文字から 20 文字までの ASCII 文字、ユーザ名は 1 文字から 30 文字までの ASCII 文字で表すことができます。

注意

DECnet のノード名は 1 ~ 6 文字の英数字で、必ず 1 つ以上の英字を含む文字列で表されます。

説明

CIserver プロキシ・データベースから指定された CIserver プロキシ・エントリを削除します。このコマンドで、省略時の CIserver プロキシ・エントリを削除することはできません。省略時の CIserver プロキシ・エントリの削除に関しては、SET PROXY/DEFAULT を参照してください。

例

```
IMCP> REMOVE PROXY TOKYO::JIM
```

ノード "TOKYO" の、ユーザ "JIM" の CIservr プロキシ・エントリが削除されます。この後、このユーザからの辞書へのアクセスは、省略時の CIservr プロキシ・アカウントが使用されます。また、SET PROXY/NODEFAULT により省略時の CIservr プロキシ・アカウントが登録されていない場合は、エラーとなり接続できません。

SET PROXY

ユーザが CIservr を利用してアクセスする辞書を設定します。

形式

```
SET PROXY user local
```

コマンド修飾子

```
/LOG  
/NOLOG
```

コマンドの実行結果を表示するかどうかを指定します。省略時設定は/LOG です。

パラメータ

user

ユーザ名を指定します。リモートのユーザ名は `node::user` の形で表され、`node` はノード名、`user` はそのノード上のユーザ名を示します。ノード名は 1 文字から 20 文字までの ASCII 文字、ユーザ名は 1 文字から 30 文字までの ASCII 文字で表すことができます。

注意

DECnet のノード名は 1 ~ 6 文字の英数字で、必ず 1 つ以上の英字を含む文字列で表されます。

local

パラメータ *user* で示されるユーザが使用できる CIservr プロキシ・アカウントを示します。ローカル・ノード上のユーザ名を指定します。

説明

ユーザが CIservr を利用してアクセスする辞書を設定することができます。この設定を行うと、ユーザはローカルにある他のユーザと同じ権限で日本語変換するための辞書をアクセスできるようになります。ユーザとは、そのユーザのノード名、トランスポート・デリミタ、ユーザ名から構成されます。トランスポート・デリミタには、ローカル・トランスポートを表す "0:" と DECnet トランスポートを表す "::" の 2 種類があります。DECnet のトランスポート・デリミタ "::" を使用する場合

は、その前にノード名をつけなければなりません。ローカルのトランスポート・デリミタ "0:"を使用する場合は、ノード名は必要ありません。

例

1.

```
IMCP> SET PROXY TOKYO::JACK JACK_S
```

DECnet ノード "TOKYO" のユーザ JACK が、ローカルのユーザ JACK_S の権限で辞書アクセスができるように設定します。

2.

```
IMCP> SET PROXY 0:JACK JACK_S
```

ローカル・ノードのユーザ JACK が、同じローカルのユーザ JACK_S の権限で辞書アクセスができるように設定します。

SET PROXY/DEFAULT

登録されていないユーザが、ローカルのどのユーザの権限で CIservr を利用して辞書にアクセスするかを設定します。

形式

```
SET PROXY/[NO]DEFAULT [local]
```

コマンド修飾子

/DEFAULT

/NODEFAULT

修飾子/DEFAULT により、登録されていないユーザの辞書へのアクセスに対し、ローカルのユーザの設定を行います。また、修飾子/NODEFAULT により、そのローカルのユーザの指定を解除します。

パラメータ

local

ローカル・ノード上のユーザ名を指定してください。CIservr プロキシ・データベースに登録されていないユーザが、このローカルのユーザの権限で辞書をアクセスします。

説明

登録されていないユーザの辞書アクセスの権限を設定します。その権限は、設定したローカルのユーザがすでに持っている辞書アクセスの権限と同等になります。この場合、登録されていないユーザからの接続要求は設定したローカルのユーザの権限で実行されます。/NODEFAULT が指定された場合、このコマンドはパラメータをとらず、登録されていないユーザからの接続要求は拒否されます。

例

```
IMCP> SET PROXY/DEFAULT CIS$DEFAULT
```

この例では、登録されていないユーザの辞書アクセス権は、ローカルのユーザ "CIS\$DEFAULT" と同じになります。

SHOW CONNECTION

CIserver に接続されているクライアントの情報を表示します。

形式

SHOW CONNECTION

コマンド修飾子

なし

パラメータ

なし

説明

現在サーバに接続されているコネクションの ID 番号，クライアントのトランスポート名，ノード名，ユーザ名が表示されます。

トランスポートがローカル・トランスポートの場合，クライアントのノード名は "LOCAL" となります。

例

```
IMCP> SHOW CONNECTION
Conn. ID Trans. Remote User
0000DAA0 LOCAL LOCAL JIM
```

ユーザ JIM がローカル・トランスポートを使用して，CIserver を利用しています。このコネクションの ID 番号は，0000DAA0 です。

SHOW PROXY

CIserver プロキシ・データベースに登録されたエントリを表示します。

形式

SHOW PROXY *[user]*

コマンド修飾子

/ALL

すべてのエントリを表示します。省略時設定は/ALL です。

/NODE=node-name

node-name で示されるノードに合致する、すべてのエントリを表示します。

/TRANSPORT=transport-name

transport-name で示されるトランスポートに合致する、すべてのエントリを表示します。

/USER=user-name

user-name で示される名前に合致する、すべてのエントリを表示します。

パラメータ

user

参照するユーザの名前を指定します。ユーザ名は node::user の形で表され、node はノード名、user はそのノード上のユーザ名を示します。ノード名は 1 文字から 20 文字までの ASCII 文字、ユーザ名は 1 文字から 30 文字までの ASCII 文字で表すことができます。

このパラメータを省略した場合、CIserver プロキシ・データベースに登録されたすべての CIserver のプロキシ・エントリを表示します。

ワイルドカード文字の使用はできません。

注意

DECnet のノード名は 1 ~ 6 文字の英数字で、必ず 1 つ以上の英字を含む文字列で表されます。

 説明

CIserver プロキシ・データベースに登録された CIserver プロキシ・エントリを参照することができます。表示される情報は、リモート・ノードのユーザ名、ノード名、トランスポート名とそれに対応するローカル・ノードの CIserver プロキシ・アカウントです。SET PROXY/DEFAULT コマンドで指定された省略時の CIserver プロキシ・アカウントは、ユーザ名、ノード名、トランスポート名がアスタリスクで表示されます。

なお、ユーザがローカル・トランスポートを使うような CIserver プロキシ・エントリは、ノード名がすべて "LOCAL" と表示されます。

パラメータ user が指定されなかった場合、/ALL が省略時設定となり、CIserver プロキシ・データベースに登録されたすべての CIserver プロキシ・エントリが表示されます。そのほかのコマンド修飾子として /NODE、/USER、/TRANSPORT があります。これらの修飾子が複数指定された場合は、そのすべての修飾子に与えられた値に合致する CIserver プロキシ・エントリを表示します。

 例

1.

```
IMCP> SHOW PROXY
```

Transp.	User	Node	Mapped	
*****	*****	*****	JIM	1
DECNET	JOHN	PQRST	JIM	2
LOCAL	KATHY	LOCAL	JIM	3

CIserver プロキシ・データベースに登録されたすべての CIserver プロキシ・エントリを表示します。1 では、省略時の CIserver プロキシとしてローカルのユーザ "JIM" の辞書アクセス権を利用して辞書が利用できることを表しています。2 では、ノード名 "PQRST" のユーザ "JOHN" がローカルのユーザ "JIM" の辞書アクセス権を利用して DECnet トランスポート経由で辞書が使えることを表しています。3 では、ローカルのユーザ "KATHY" が同じローカルのユーザ "JIM" の辞書アクセス権を利用してローカル・トランスポート経由で辞書が使えることを表しています。

2.

```
IMCP> SHOW PROXY TOKYO::JIM
```

Transp.	User	Node	Mapped
DECNET	JIM	TOKYO	KEN

ノード "TOKYO" のユーザ "JIM" が DECnet を通してアクセスするときに使用される CIserver プロキシ・エントリを表示します。この例では、ノード "TOKYO" の

ユーザ "JIM" がローカルのユーザ "KEN" の辞書アクセス権を利用して DECnet 経由で辞書が使用できることを表しています。

3. IMCP> SHOW PROXY /USER=PAUL/NODE=ABC

Transp.	User	Node	Mapped
DECNET	PAUL	ABC	KATHY

ノード "ABC" のユーザ "PAUL" にかかわる CIserv プロキシ・エントリを表示します。この例ではノード "ABC" のユーザ "PAUL" がローカルのユーザ "KATHY" の辞書アクセス権を利用して DECnet トランスポート経由で辞書が使用できることを表しています。

SHOW SERVER

CIserver のステータスを表示します。

形式

SHOW SERVER

コマンド修飾子

なし

パラメータ

なし

説明

CIserver の現在の状態と現在確立されているコネクション数、およびコンテキスト数が表示されます。

例

```
IMCP> SHOW SERVER
Server is Running
  Connection(s): 3
  Context      : 3
```

このコマンドにより、CIserver の現在の状態および、総コネクション数、総コンテキスト数が表示されます。この例では、コネクションが3つはられ、コンテキストが3つ存在することを示しています。

STOP SERVER

CIserver を停止します。

形式

STOP SERVER

コマンド修飾子

/NOW

この修飾子を使用すると、CIserver は現在のすべてのクライアントとの接続を切断し、停止します。切断されたクライアントにはエラーが返ります。この修飾子は、後に述べる修飾子/SHUTDOWN と同時に使用することはできません。省略時設定は/NOW です。

/SHUTDOWN

この修飾子を使用すると、CIserver は現在のすべてのクライアントとの接続が終了した後、停止します。このコマンドを発行した後、CIserver は新しい接続を受け付けません。この修飾子は前述の修飾子/NOW と同時に使用することはできません。

パラメータ

なし

説明

CIserver を停止できます。CIserver の立ち上げは、コマンド・プロシージャ SYS\$STARTUP:IM\$CIS_STARTUP.COM により行ってください。

このコマンドには/NOW と/SHUTDOWN の 2 つの修飾子があります。/NOW を指定すると、サーバはすぐに現在の接続を切断し、停止します。/SHUTDOWN を指定すると、現在存在する接続すべての完了を待って、停止します。この 2 つの修飾子を同時に使うことはできません。

STOP SERVER

例

```
IMCP> STOP SERVER
```

このコマンドにより、省略時の修飾子である/NOW が実行されるので、サーバは現在接続されているクライアントの終了を待たずに、その接続を切断し、サーバ自身を停止します。

FIP がサポートする PROFILE の INDEX

表 A-1 に FIP がサポートする PROFILE の INDEX をまとめます。

表 A-1 FIP がサポートする PROFILE の INDEX

INDEX	許可される値
DEC-JAPANESE.KEY.keybind	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_1	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_2	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_3	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_4	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_5	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_6	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_7	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_8	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.KEY.keybind_9	KEYBIND ファイル名
DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow	"current", "status", 数字のいずれか
DEC-JAPANESE.DISP.preEditColumn	"current", "status", 数字のいずれか
DEC-JAPANESE.DISP.inputRendition	"none", "bold", "blink", "reverse", "underline" "zenkaku", "hankaku"のいずれか
DEC-JAPANESE.DISP.currentClauseRendition	"none", "bold", "blink", "reverse", "underline" "zenkaku", "hankaku"のいずれか
DEC-JAPANESE.DISP.leadingClauseRendition	"none", "bold", "blink", "reverse", "underline" "zenkaku", "hankaku"のいずれか
DEC-JAPANESE.DISP.trailingClauseRendition	"none", "bold", "blink", "reverse", "underline" "zenkaku", "hankaku"のいずれか
DEC-JAPANESE.DISP.kanaRendition	"none", "bold", "blink", "reverse", "underline" "zenkaku", "hankaku"のいずれか
DEC-JAPANESE.ECHO.ascii	"none", "bold", "blink", "reverse", "underline" "zenkaku", "hankaku"のいずれか

(次ページに続く)

FIP がサポートする PROFILE の INDEX

表 A-1 (続き) FIP がサポートする PROFILE の INDEX

INDEX	許可される値
DEC-JAPANESE.ECHO.autoRomanKana	"on","off"
DEC-JAPANESE.ECHO.kana	"hiragana","katakana","jiskana"
DEC-JAPANESE.OUSTRANGE.clauseSize	"none" "rotate" "done"
DEC-JAPANESE.OUSTRANGE.clauseNumber	"none" "rotate" "done"
DEC-JAPANESE.OUSTRANGE.cursorPosition	"none" "done"
DEC-JAPANESE.SERVER.name	"0:IM\$CISERVER_JP" または "ノード名::IM\$CISERVER_JP"
DEC-JAPANESE.FIP.warningBell	"on","off"
DEC-JAPANESE.FIP.conversionStartKey	キー名 (注 1)
DEC-JAPANESE.FIP.statusLinePrompt	日本語文字列
DEC-JAPANESE.CHAR.jisKana	"on"または "off"
DEC-JAPANESE.CHAR.codeSet	"sdeckanji"または "deckanji"
DEC-JAPANESE.ECHO.romkanaDB	ファイル名

(注 1)

“キー名”とは、『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』の付録 A の表 A-1 “キー名リスト”に載っているキー名が該当します。たとえば、次のようなものが挙げられます。

- | | |
|---------------------|---|
| 1) 文字キー | "X", "x" (大文字と小文字は区別されます) |
| 2) 数字キーパッド | "KP0" (KP0 キー)
"COMMA" (KP, キー) |
| 3) ファンクションキー | "F6" (F6 キー)
"DO" (DO キー) |
| 4) "Ctrl キー"との組み合わせ | "NULL" (Ctrl/スペース)
"CTRL_A" (Ctrl/A) |

詳しくは、『ユーザ・キー定義 利用者の手引き』の付録 A を参照してください。

FIP のメッセージ

1.

`%NONAME-I-NOMSG, Message number xxxxxxxx`

このメッセージが出るときには、FIP が正しくインストールされていません。システム・マネージャに対処を依頼してください。

2.

`%FIP-I-WAITCONFIP, Wait establish FIP connection...`

`%FIP-F-NOTRDMBX, Cannot read mailbox`

`-%SYSTEM-S-BUFFEROVF, output buffer overflow`

このメッセージが出るときには、PROFILE 内のある INDEX の値が正しく設定されていない可能性があります。PROFILE の内容を確認してください。

日本語入力プロセス (FIP) には、次の制限事項があります。

1. アプリケーションが FIP を使って日本語入力を得るためには、次の条件がすべて満たされていることが必要です。
 - ターミナルが Psthru モードでないこと
 - ターミナルが Noecho モードでないこと
 - QIO リード要求が Noecho でないこと
2. ブロードキャスト・メッセージ後、入力ラインのリフレッシュは行いません。
3. 仮想端末を使用中にディスコネクトを行い、再度コネクトした時点での最初のリード要求は無視されます。
4. リモート・ターミナル (RT) で使用することはできません。
5. アプリケーションによっては、ユーザが指定した日本語変換スタート・キーが起動しない場合があります。
6. アプリケーション定義の複数回のキーストロークによるファンクション・キーが、動作しない場合があります。
7. アプリケーションがターミナルの属性を挿入モードにした場合 (例, VAX NOTE), 入力した文字列が、日本語変換後に右にシフトすることがあります。
8. QIO リード要求で、右揃えのリード・ベリファイは行いません。
9. シフト JIS のコードセットは扱いません。

A

ASCII 文字 4-4

C

CIserver 1-1, 1-2, 4-8, 10-2
 シャットダウン 10-2, 10-19
 ステータス 10-2, 10-18
 プロキシ・アカウント 10-2
 プロキシ・エントリ削除 10-8
 プロキシ・データベース 10-2
 CIserver プロキシ・データベース 10-2
 エントリ 10-15
 作成 10-5
 /CLI 6-2
 /CODE 6-2
 CREATE/PROXY 10-3, 10-5

D

DCL コマンド 2-1
 DEC-JAPANESE.CHAR.codeSet 4-13
 DEC-JAPANESE.CHAR.jisKana 4-12
 DEC-JAPANESE.DISP.preEditColumn 4-2
 DEC-JAPANESE.DISP.preEditRow 4-2
 DEC-JAPANESE.ECHO.ascii 4-4
 DEC-JAPANESE.ECHO.autoRomanKana 4-5
 DEC-JAPANESE.ECHO.romkanaDB 4-13
 DEC-JAPANESE.FIP.conversionStartKey
 4-10
 DEC-JAPANESE.FIP.statusLinePrompt 4-11
 DEC-JAPANESE.FIP.warningBell 4-9
 DEC-JAPANESE.KEY.keybind 4-1
 DEC-JAPANESE.OUTRANGE.clauseNumber
 4-7
 DEC-JAPANESE.OUTRANGE.clauseSize 4-6
 DEC-JAPANESE.OUTRANGE.cursorPosition
 4-8
 DEC-JAPANESE.SERVER.name 4-8
 DECnet
 トランスポート 10-1, 10-10
 ノード名 10-8, 10-10, 10-15
 /DICTIONARY 6-3

E

EVEJ キー 3-1, 7-1
 EXIT 10-3

F

FIDRIVER 1-2, 3-1
 FIP 10-1
 構成の概略 1-2
 の起動 2-1
 の終了 2-3
 FIP/SUB
 概要 5-1
 かな漢字変換 7-1
 漢字コード変換フィルタ 5-2
 起動と終了 6-1
 コマンド修飾子 6-2
 /CLI 6-2
 /CODE 6-2
 /CONVERSION_KEY 6-3
 /DICTIONARY 6-3, 6-4
 /LOG 6-4
 /PROCESS 6-4
 /PROFILE 6-4
 /PROMPT 6-4
 /STATUS_LINE 6-5
 コマンド・パラメータ 6-1
 使用例 9-1
 制限事項 8-1
 日本語入力機能 5-1
 FIP/SUB の形式 6-1
 Front-end Input Process 10-1

H

HELP 10-3, 10-6

I

IMSDEFAULTS:IMSPROFILE.DAT 2-2
 IMSPROFILE 2-2, 4-1
 IMCP 10-1
 起動と終了 10-3
 コマンド 10-3
 コマンドの一覧 10-3
 サブコマンド 10-6

IMLIB	1-1, 4-1, 7-1
INDEX	4-3
Input Method Library	4-1
INPUT START	2-1
INPUT STOP	2-3

J

JIS かな code	4-12
JSY\$KOJIN	2-2
JVMS キー	3-1, 7-1

L

LEIA キー	3-2, 7-1
/LINE	6-5

P

pre-edit area	4-2
/PROCESS	6-4
PROFILE	2-1, 2-2
ASCII 文字エコー・モード	4-5
JIS かな code	4-12
KEYBIND ファイル	4-2
カーソル移動	4-8
かな漢字変換サーバ	4-9
かなキー入力時のエコー文字	4-5
警告ベル音	4-10
自動ローマ字かな変換	4-6
ステータス・ライン上のプロンプト文字 列	4-12
日本語変換スタート・キー	4-11
の INDEX	A-1
の指定	4-1
の設定	4-1
の例	4-14
ビデオ属性	4-4
文節間の移動方法	4-7
文節サイズ変更	4-7
前編集領域	4-3
文字コードセット	4-13
ローマ字かな変換	4-14

R

REMOVE PROXY	10-3, 10-8
--------------	------------

S

SET PROXY	10-3, 10-10
SET PROXY/DEFAULT	10-3, 10-12
SHOW CONNECTION	10-3, 10-14
SHOW PROXY	10-3, 10-15
SHOW SERVER	10-3, 10-18
/STATUS_LINE	6-4
STOP SERVER	10-3, 10-19

SYSS\$LOGIN:JSYKOJIN.JISHO	2-2
SYSS\$STARTUP:IM\$CIS_STARTUP.COM	10-2, 10-19
SYSS\$SYSTEM:IM\$CIS_PROXY_DB.DAT	10-5

T

TARO キー	3-2, 7-1
TTDRIVER	1-2, 3-1

V

VT282	6-3
VT382	6-3

エ

エコー文字の指定	4-5
エコー・モード	4-4

カ

下線	3-1
カーソル移動	4-8
かな漢字変換	
キー定義	4-1
サーバ	1-1
サーバの指定	4-8
入力	3-1
入力操作	3-1
かなキー入力	4-5

キ

キー定義の選択方法	3-2
-----------	-----

ク

クライアントの情報	10-14
-----------	-------

ケ

警告ベル音	4-9
-------	-----

コ

高輝度	4-4
個人辞書	2-1, 2-2

シ

自動ローマ字かな変換	4-5
シフト JIS	5-2, 6-2, 9-3
シフト JIS 端末	5-2

ス

スタートアップ	4-1
ステータス・ライン プロンプト	4-11

セ

制限事項	C-1
------	-----

タ

端末	1-1
----	-----

ツ

通常が表示	4-4
-------	-----

ト

トランスポート・デリミタ	10-10
--------------	-------

ニ

日本語変換スタート・キー	4-10
--------------	------

ハ

半角カタカナ	6-3, 7-2
反転	4-4

ヒ

ビデオ属性	4-3
下線	3-1
高輝度	4-4
通常が表示	4-4
反転	4-4

フ

プロファイル	9-2
フロントエンド・システム	1-1
文節	
拡大	4-6
縮小	4-6
文節間の移動	4-7

へ

変換開始キー	6-3
変換キー定義ライブラリ	1-1
変換サーバ・プロセス	1-1
変換情報サーバ	10-1

変換情報サーバ・コントロール・プログラム

(IMCP)	10-1
変換対象文節	4-4
変換対象文字列	4-4
変換領域	4-3

マ

前編集領域	4-2
の指定	4-2

メ

メッセージ	B-1
-------	-----

モ

文字コードセット	4-13
----------	------

ユ

ユーザ	
辞書のアクセス権	10-10
ユーザ・キー定義ライブラリ	7-1

リ

リモート・ターミナル	C-1
------------	-----

ロ

ローカル・トランスポート	10-1
ローマ字かな変換テーブル・ファイル	4-13

日本語 OpenVMS
日本語入力プロセス 利用者の手引き

2009年11月 発行

日本ヒューレット・パカード株式会社

〒102-0076 東京都千代田区五番町7番地

電話 (03)3512-5700 (大代表)